

雌阿寒岳における全磁力観測*

Observation of Geomagnetic Total Force at Meakandake Volcano

気象庁地磁気観測所

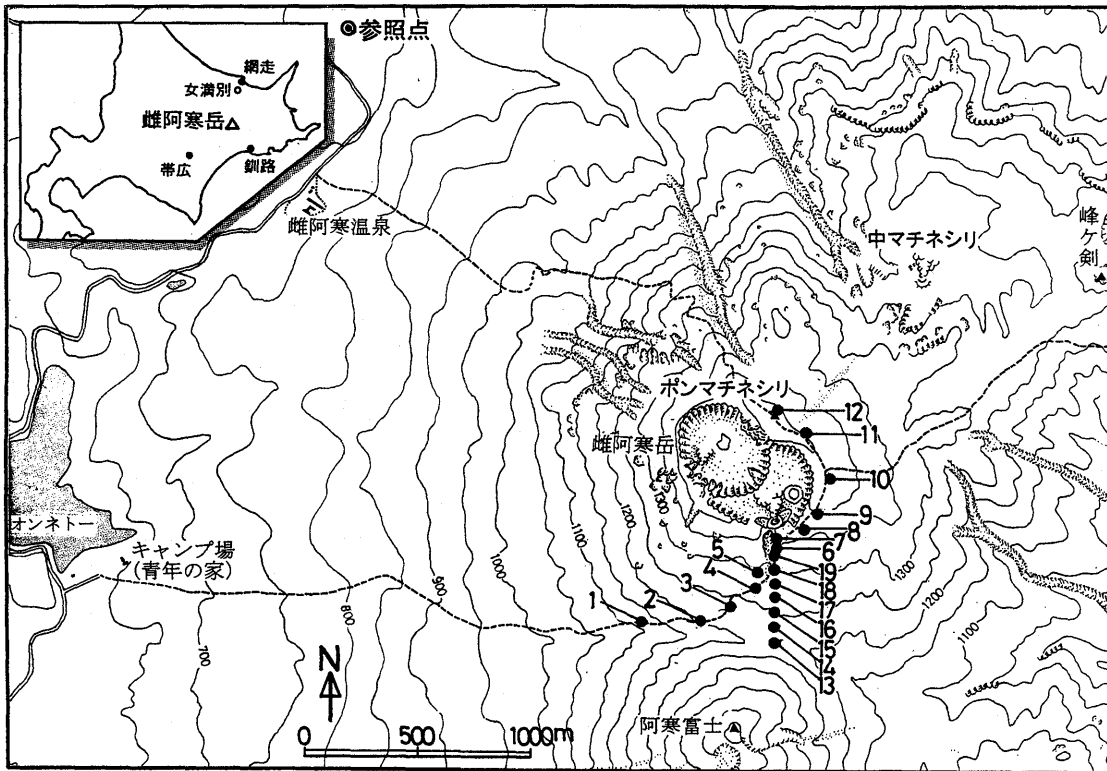
Kakioka Magnetic Observatory, JMA

現在、地磁気観測所女満別出張所では、雌阿寒岳の火山活動と関連する全磁力の変化を捉えることを目的として、繰り返し観測を実施している。噴火を含めた火山活動を続けているボンマチネシリ火口付近に1992年から12測点を設置し(第1図, No. 1-12)、さらに1998年、火口と南側阿寒富士の間にはほぼ磁氣的南北に7点の観測点を増設した(図1, No. 13-19)。

繰り返し観測時に連続測定している山麓の参照点(第1図)を基準とした全磁力差の変化を第2図に示す。

No. 1-12の点については1992年以降の変化を、No. 13-19の点については1998年と1999年の変化を示した。またNo. 9観測点は消失したため、1997年の観測時に新測点を設置したものである。

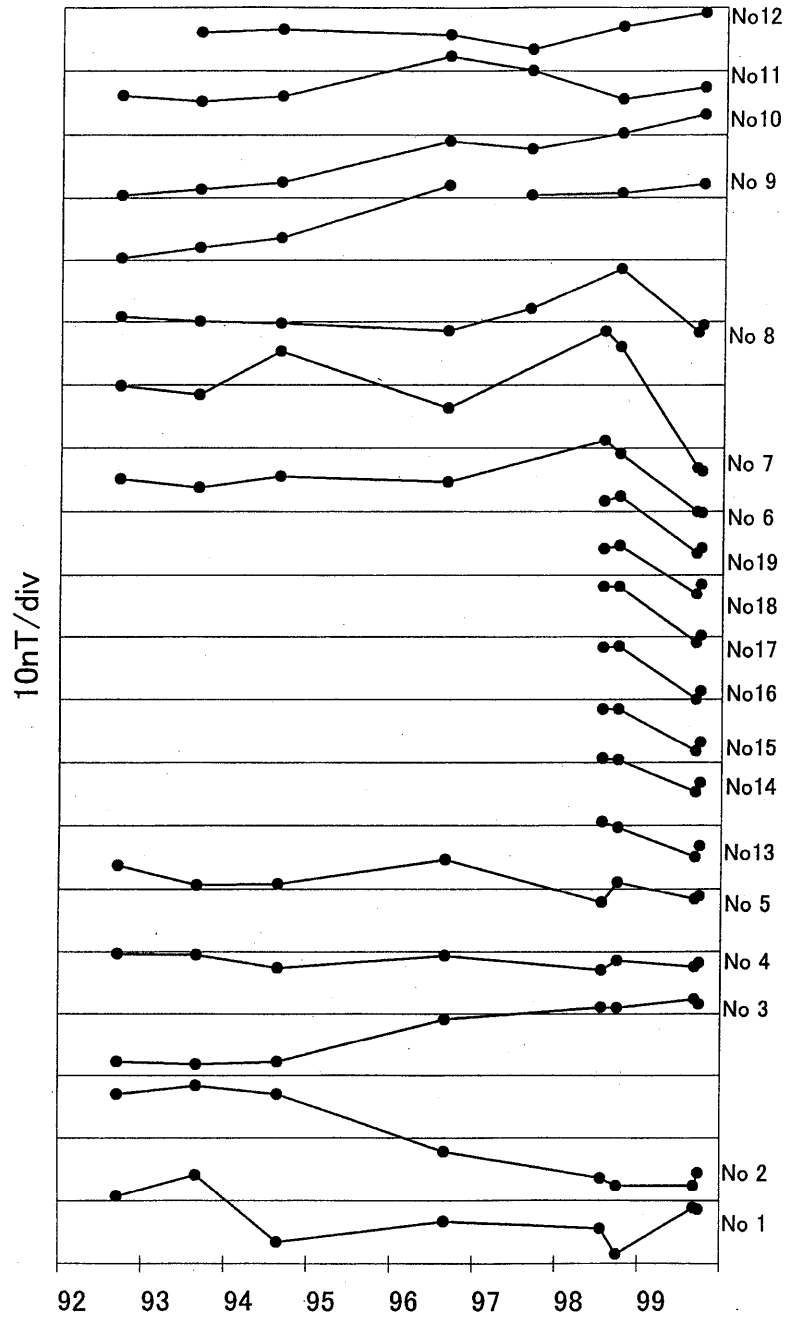
これらによると、1998年と1999年の観測の間に、全磁力が火口南側で減少、北側で増加している傾向が見られる。とくに火口南側のNo. 6、7、8及び1998年に新設したNo. 13-19では揃って全磁力の減少傾向が見られ、かつ火口近傍の変化が大きくなっている。この変化は、熱消磁に伴うものである可能性が考えられる。この他に1994年から1996年にかけても変化が見られるが、観測点の位置関係と全磁力の増減に相関が見出せないことから、火山活動との関係はわからない。



第1図 全磁力観測点配置図
●全磁力繰り返し観測点
◎参照点

Fig. 1 The distribution of observation points of the geomagnetic total force.
● repeat observation point
◎ reference point

* Received 20 Dec., 1999



第2図 各観測点と参照点との全磁力差の変化

Fig. 2 Variations of the difference between geomagnetic total force at repeat observation points and at reference point.